

島根郡

〔出雲風土記〕島根郡

所以號島根者國引坐八束水臣津野命之○之下有脫文詔而負給名故云島根

〔出雲風土記抄二島根郡〕以郡中諸方所經之路程方隅而今稽考之此郡家者今本庄新庄兩村中路正當矣

〔續日本紀二十九稱德〕神護景雲二年八月癸卯出雲國島根郡人外從六位上神掃石公文麻呂○中賜姓

大神掃石朝臣

秋鹿郡

〔出雲風土記〕秋鹿郡

所以號秋鹿者郡家正北秋鹿日女命座故云秋鹿矣

〔出雲風土記抄二秋鹿郡〕按此記之趣秋鹿日女二所明神祠則在于秋鹿村蓋當此社南地爲右之郡家耶從此以東十七八町許乃長江洲渚今猶呼曰郡埼意郡家隣且長江亦秋鹿一村也

楯縫郡

〔出雲風土記〕楯縫郡

所以號楯縫者神魂命詔五十足天日栖宮之縱橫御量千尋栲繩持而百結ニ八十結ニ下而此天御量持而所造天下大神之宮造奉詔而御子天御鳥命楯部爲而天降下給之爾時退下來座而大神宮御裝束楯造始給所是也仍至今楯梓造而奉於皇神等故云楯縫

出雲郡

〔出雲風土記〕出雲郡

所以號出雲者說名如國也

〔懷橋談下出雲郡〕郡を出雲と名付る故に風土記にも說名國のごとしと書たり然れば今の俗出

東と書國の東にもあらず誤りなるべし又玄ゆつをうといふはいかなる故にや出雲郡といへば國の名にまぎる、ゆるに音にて玄ゆつをうといふなるべし雲は音うん漢音には音つ

む吳音には聲をう我國まづ吳國へ通じたれば今に至るまで國人の言葉多くは吳音也故に